

Lead

All roads lead to the future リード



コミュニケーションペーパー
2013 Winter 冬号 ¥0 TAKE FREE

まなびの時間 高知の食に輝きを

のぞいてみよう高知大学の授業!!
〈医学部〉Labo通信

高知大学のキラ星 歴史とともに走れ

高知大学ニュース

高知の山の明日を担う

〈特集1〉森の調和に希望の種を
〈特集2〉焼畑で描く、未来の山

荒れる山、廃れる集落。いま、高知大学にできることは何だろうか？

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

Event information 2013 Winter 冬号



平成24・25年度 式典のお知らせ

平成24年度高知大学
大学院修了式
学部卒業式

3/22 金
場所 高知県立
県民文化ホール



平成25年度高知大学
大学院
学部入学式

4/3 水
場所 高知県立
県民文化ホール



高知大学 卒業制作展

2/12 火 → 2/17 日
入場料無料

教育学部生涯教育課程芸術文化コース(美術)の卒業制作展です。本展覧会は、今年度で第12回をむかえます。西洋画・日本画・デザイン・彫刻・木工の各専攻分野から卒業生各自の研究テーマに沿って制作された作品が展覧されます。ぜひご覧下さい。

場所 高知県立美術館
県民ギャラリー
時間 9:00~17:00
(最終日は16:00まで)



平成25年度入試案内

	学部	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
推薦入試Ⅱ	農学部	1/22(火)~24(木)	2/3(日)	2/13(水)	2/14(木)~19(火)
	教育学部		2/9(土)		
	土佐さきがけプログラム (グリーンサイエンス人材育成コース)		2/9(土)		
AO入試	土佐さきがけプログラム (生命・環境人材育成コース)	1/22(火)~24(木)	2/3(日)	2/13(水)	2/14(木)~19(火)
一般入試	前期日程試験	1/28(月)~2/6(水)	2/25(月)・26(火)	3/7(木)	3/8(金)~15(金)
	後期日程試験		3/12(火)	3/23(土)	3/24(日)~27(水)

■入試に関するお問い合わせ先(ご意見・ご質問にお応えします。)

学務部入試課 TEL.088-844-8153
E-mail nys-web@kochi-u.ac.jp

■入試に関する最新情報(随時更新中)

<http://www.kochi-u.ac.jp/nyusi/index.html>

メルマガ
やってます!

月2回(第2・4金曜日)高知大学からメールマガジンを配信しています。
大学の「入試情報(重要!)」から「あれこれ(これは面白い)」まで
高知大学づくりの情報をタイムリーに発信します。

■大学案内・募集要項(入学願書)等の資料を
パソコン・携帯電話からテレメール請求できます。

インターネットの場合(携帯電話・パソコン)

<http://telemail.jp>

携帯電話・パソコンとも共有アドレスです。
(iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ)



登録はこちらから
<http://daigaku.jp/kochi-u>



お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



高知大学
Kochi University

広報戦略室

高知大学

検索

<http://www.kochi-u.ac.jp/>

TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033

〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

高知大学の最新情報を伝えたい

THE こうち
ユニバーシティ CLUB

FM 高知
81.6MHz

1月6日 日 より
放送開始!
毎週日曜日/9:30~9:55

高知大学の教育、研究、地域貢献等のホットな情報をお届けします。是非、お聴き下さい。

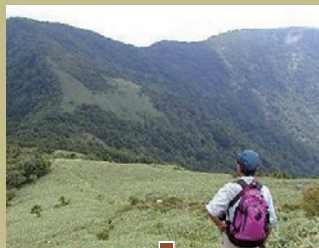




表土の流出を防ぐためにコモを敷く



コモの間から育つヤマヌカボ



食害前と後の変貌の様子
(上:2002年 下:2007年)
写真提供者:坂本彰氏



自然科学系
理学部門 教授
いしかわ しんじ
石川 慎吾

東北大学理学部卒業。理学博士。専門は植物生態学、植生学、保全生態学。自然攪乱や人為攪乱のある地の植物の生活様式、生物多様性の保全などを研究。「初めて三嶺に行った時、森の豊かさに目をみはりました。うれしかったですね」



研究のため種子を採取

食害により丸裸になった山頂の様子

散策中に出合ったタカネオトギリの群落

森の調和に

〈特集1〉

希望の種を

増えすぎたシカの食害で、崩壊寸前になっている三嶺の植生。在来植物を利用して再生したいと、高知大の植物生態学研究室が挑んでいます。



食害により樹皮が剥がれた木

激増したシカが美しい三嶺を丸裸に……

す。しかし、かつて山肌が薄緑色のミヤマクマザサに覆われていた美しい三嶺はいま……。

「2008年、数年ぶりに三嶺を訪れました。当時、高知県環境審議会・自然環境部会の副会長(現・会長を務めており、シカの食害がひどいと聞いて行つたのですが……。とてもない状態になってしまったと驚きましたね「緑にあふれていた三嶺が、丸裸に近い姿になっていたのです。変貌させたのは、近年すごい勢いで増えているシカ。三嶺だけではなく、いま日本各地でシカが急増して、深刻な食害が問題になっています。増えた主な要因としては、①天敵がおらず狩猟する人も減った、②植林後しばらく、伐採地が草原状になって最高のエサ場となった、③地球温暖化の影響で積雪が減り、冬の死亡率が大きく下がった——などがあげられています。三嶺では一時期、エリアによっては1畝当たり200頭を超えるという異常な密度で生息し、「山を歩くと獣の臭いがプ



防護柵内で生長する植物

かもしれません。さらに効果をあげようと、石ころだらけになった場所にコモなどを敷き、雨で流れてきた土が溜まつてから、ヤマヌカボの種を撒くことも行っています。

地域の自然を守るのも研究者の大きな務め

ヤマヌカボ以外にも、シカに負けない植物はあるとのこと。毒がある、食べにくい、まずいといった植物が柵外で増えている事に石川先

食害に負けない植物で緑化はできないか？

食害防止のため、最も重要なのは捕獲による個体数調節。それに加えて保護柵の設置も行いました。絶滅危惧種が多く生育していた場所や、土壌浸食の危険性が高いところに設置すると、効果はきめん。「柵内には柵外の倍以上の植物種が見られるようになりました。壊滅寸前だったミヤマクマザサについては、いったん地

生は着目。学生たちと山を歩いて、裸になった土地の緑化に使えるような植物を採取して、種子の発芽特性や成長特性を研究しています。「生態学は最近、理学的な研究だけではなく、具体的な成果を求められることが多くなりました。三嶺の他、菜の花が異常繁殖した四万十川下流の入田、外来植物のシナダレスズメガヤが蔓延した物部川下流などでも調査を行っています。地域の自然を守るにはどうしたらいいのか、という問いかけに研究者は応えなければなりません」

今回の取材では、石川先生と三嶺に三嶺を散策。その際、タカネオトギリという植物の群落と出会いました。「これを持ち帰って、学生に研究させてみた面白いかも……」と石川先生。美しい三嶺を取り戻す手助けには、高知大学の学生も一役買っているのです。



焼畑で描く、未来の山

「森林面積日本1」の高知県は、かつて「焼畑面積日本1」でもあった！昔ながらの焼畑農業を研究すると、未来の山のあり方が見えてきます。

土壌から考える 焼畑の研究者

「かつて、高知県の焼畑面積の広さは日本1だったんですよ。高度経済成長期までは山間部にまだ残っていた。驚きの事実を明かすのは、土壌学を専門とする田中壮太准教授。20年近くにわたって、国内外の焼畑を調査研究してきました。特に日本の焼畑については、民俗学を基盤とする焼畑研究者は少なくないのですが、

土壌学からアプローチするのは「ほか」だけでも「高知大学ならではの個性あふれる研究者です。」

では、焼畑とはどのようなものなのか、田中先生に講義してもらいましょう。「水田稲作以前からあった農業と言われており、稲作が山に広がってからも水の便や気候などの条件が良くない山間部で盛んに行われました。まず森を伐採して、打ち払った枝や葉を乾燥させてから火入れをします。森が蓄えていた養分が肥料とな

土の性質によって 焼畑のやり方は決まる

同じ焼畑農業でも、日本と東南アジアでは方法が随分異なるそうです。「例をあげると、日本では山の上方から火をつけて、下に向かってじっくり焼いていきます。これに対して、熱帯では下から火入れし、斜面



の上に向けて短時間で焼いていくのだとか。相違点の背景にある大きな要素が、田中先生の専門とする土壌。たとえば、熱帯雨林気候の土は風化が進み、有機物も少なく、養分を保つ力も弱いとのこと。一方、温帯の土は比較的元気で、養分をしっかりと保つことができます。「日本は温帯にあり、マレーシアやインドネシアは熱帯雨林気候、タイは熱帯モンスーン気候です。地域ごとの焼畑の土壌を調べ、比較したら、見えてくるものがあるのではないかと。焼畑は山の農業の原点です。焼畑を土から把握することにより、地域の農業の将来像を描きたいと考えています」



「未来の山」を 模索する大豊町での 焼畑栽培

は山の農業や生活に触れる機会はありません。焼畑を実践することで、山の農業や限界集落の厳しさについて理解してもらえたらと思います。もちろんほかにも多くのことを勉

田中先生の取り組みで特筆されるのが、大豊町での焼畑栽培。「学生と一緒に現地に行き、実際に山を焼いて作物を育てています。日本の焼畑における土壌データを得るという狙いがあり、これまでに4年続けてきました」とのこと。放置されていた林を焼畑にし、その後は時々草刈りしたり、虫をつまんだりするだけで、様々な作物を無農薬・無肥料栽培しました。かぶや大根などは上等の出来栄であったそうです。「学生さんの多く



研究室にて土壌調査を行う様子

強ささせていただいています」土の調査自体は終わったとのことですが、「協力してくれた地元の人にも貢献しなければ。まだ模索中ですが、グリーンツーリズム的な活動や、作物を加工して販売することなどを考えています。将来、集落自体が消えたら手の打ちようがありません。いま、もっと山を使うようにしないと…」

総合科学系 黒潮圏科学部門 准教授

た な か そ う た
田中 壮太

京都府立大学農学部卒業。博士（農学）。専門は熱帯土壌学、土壌生態学。大学院の頃から東南アジアの農耕地や森林の土壌を研究。「山ばかり行って、『世界ウルルン滞在記』のような日々を経験してきました。なので、サンゴ礁の青い海で遊ぶのが憧れ（笑）」



焼畑の手順



焼畑は山の農業の原点

TOSA
FBC

Food Business Creator

PICK UP LECTURE
まなびの時間
高知大学の講義・研究

食品産業の中核となる 人材を育てよう

土佐FBCは平成20年度から始まった事業で、食品産業を振興していくうえで中核となる人材を育成することが目的です。なぜ人材が必要とされるのか？その理由は、高知の食をめぐる環境が背景にあります。



「高知県の食品産業は非常に損をしているんです」とバッサリ斬るのは、土佐FBCの責任者として企画運営委員長を務める受田浩之先生。農産物、魚介類とも、食材をそのまま販売する生鮮出荷が主体であることに、問題点があるといます。「これだけ食のグローバル化が進むと、いくら品質が良くても生鮮出荷だけでは負けてしまいます」

生鮮出荷された高知の食材が、他県で加工され、再び県内で販売される時には3倍以上の値がつくこともあるという現状。「チャンスが失われてしまっています。解決するためには、地域内で生産し、加工して付加価値をつけ、

もっと 土佐フードビジネス
クリエイター人材創出

高知の食に輝きを！

食材の宝庫と言われる高知県。
しかし今、その地位は決して安定したものではないと言われます。
そんな高知の食をめぐる状況に、一石を投じるべく土佐FBCは始まった。

地域外で売っていく必要があります。しかし、高知県には食品加工の担い手がない。そこで、中核になる人材、フードビジネスクリエイターの育成を高知大学で始めよう、というのが土佐FBCの事業です」

中核人材育成のための 高いレベルの講義

「土佐FBCで得た知識を、職場や業界内、地域内で伝えることができる中核となる人材でなければ振興につながらないと考えました。日本中から超一流の講師陣を集め、中核人材として必要な知識を身に付けてもらうための極めて高いレベルのカリキュラムを設定するというのは、地域の高等教育を担う高知大学だからできたことと自負しています」

それだけに内容は高度。すでに学びの現場から離れた社会人にとっては、なかなかハードな講義になったことが想像できます。

しかし、得たものも多く、受講終了した人たちは新商品を開発したり、職場で学んだ知識を生かし広めていくなど、それぞれに活躍しています。「この4年間で、土佐FBC事業で育成した人材が高知県の食品産業に与えた経済的波及効果は3億2000万円以上という試算も出ています。もちろん、年を追うごとにさらに伸びていくことは間違いありません」

高知の「食」はまだまだ伸びる！

土佐FBCは文部科学省の助成を受けた5年間の事業で、今年度で終了の時期を迎えます。今後は自立運営を継

続する予定で、2年前から自立に向けた仕組みをどう作っていくか検討が重ねられてきました。「まず高知大学がこの事業を社会人の学びの場を提供すると位置づけ、「土佐FBCⅡ」として5年間継続することが決定しました。高知県の産業振興に果たした実績を認めていただき、県のバックアップも得ることにしています」

新しく始まる「土佐FBCⅡ」は、受益者負担ということで受講料をいただくことにしています。一方、講義の一部受講や地元企業の社内研修での活用など地域のニーズに応え、より活用しやすく学びの場の裾野を広げることも計画されています。

「高知県の食品産業には、まだまだ伸びしろがあります。まずは食品加工業の生産額を2倍にすること。これから土佐FBCによって中核人材がどんどん育ち、そこから効果が波及します。しかも高知は素材の宝庫。決して不可能ではありません」



副学長
国際・地域連携センター長

うけ だ ひろ ゆき
受田 浩之

プロフィール

福岡県生まれ。九州大学農学部卒業。平成4年より高知大学に着任。高知県の産業振興計画検討委員会委員長を務めるなど、地域活性化の最前線で活躍する。「高知の食品産業は、まだまだ伸びる可能性であふれています。それにはまず、人が大切です」

詳しい情報は HP からご覧ください

土佐 FBC

検索

<http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/~ckkc0001/tosafbc/>

土佐フードビジネスクリエイター (FBC Food Business Creator) 人材創出とは

この事業は、地域的な特性を鑑み、地域における食品産業の振興に必要とされる中核人材を育成することを目的にしています。受講者の多くは社会人で、生産者や食品産業の製造担当者、経営者から自治体の行政マンまで、さまざまな人が受講されています。「地域の大学」として、地域が求める最優先課題である一次産業の再生と振興を実現する上で、最も期待できる食品産業の振興を目指して、地域自治体と手を携えながら、この人材育成プログラムに取り組んでいます。



養成コースA

募集人員(5名程度)／研修期間(2年間)
地域食品関連産業をリードする中核人材を養成

養成コースB

募集人員(10名程度)／研修期間(1年間)
商品開発や分析・管理等の技術業務を担える
食料産業従事者を養成

養成コースC

募集人員(5名程度)／研修期間(1年間)
食品や経営の基礎知識を身に付けた
農業従事者・食品産業従事者を養成

養成コースA／特任講師



特任講師／博士(農学)

よし かね ゆう
吉金 優

私の授業では、受講生、個々の課題に取り組み、こんな物を作りたい、成分を調べたいなどの要望に対して実験的にそれを解決しています。例えば、糖を除いたアイスクリームを作りたい場合、カロリーを抑えた商品のニーズを踏まえ、砂糖無添加のアイスクリームを作りました。高知の食べ物は、すごくおいしいです。そのおいしさをきちんと示す機能性や成分を調べてエビデンスとして「ここが違いますよ!」と商品の強みを共に伝えることが重要です。FBCを受講される方は、本気で取り組む姿勢が強く質問や相談によく乗っています。

〈講義内容〉

〈食品製造・加工〉

加工の基本工程を理解する上で必要な食品理化学的知識や工学的知識について解説するとともに、食品成分の機能性や微生物発酵についても講義します。

〈マネジメント〉

知的財産・マーケティング・経営起業論・人材管理・ファイナンスを講義し、組織運営に必要なマネジメント力や商品企画力、販売力の獲得を目指します。

〈品質管理〉

食品成分の科学的知識や分析手法、食中毒とその原因ならびに予防法などの食品衛生、および食品の製造・加工の管理手法であるHACCPについて解説します。

〈食品機能〉

食品の香りや栄養成分の機能性について講義します。柚子や水産物をテーマとして科学的観点から見た素材の有用性や特定保健用食品の制度などを詳細に解説します。

〈実験技術〉

理系の大学生が備える基礎科学実験の技術や実験データの統計学的解析法に関する基礎知識を学び、製品の分析や、商品開発が可能な能力を習得します。

〈現場実践学〉

加工食品の開発・製造・販売で必要になる品質管理技術、設備設計の知識、成分分析・微生物検査の方法について、講習や加工実習、企業視察研修を行います。

〈課題研究〉

地域企業の抱える様々な課題に関して、特任教員・高知県工業技術センター・高知大学が適切なチームを編成し、LOJTで綿密な指導を行います。

実習

講義

ヒトの体の再生メカニズムを探る！

再生医療部門 腎機能再生医療研究班

教員 寺田 典生教授 × 学生 岡田 奈月さん

「腎臓病が専門の寺田教授と、教授が指導する研究班で日々、研究に取り組み岡田さん。まず、研究のテーマを教えてください。」

寺田 腎臓の機能が急速に失われる急性腎障害になると、腎臓で重要な働きをする尿細管の細胞が傷んでしまい、腎臓が機能を果たせなくなってしまう。この尿細管細胞を再生治療によって回復させようという研究を行っています。

岡田 腎臓は血液をろ過して不要なものを取り除き、尿として体外に出す働きをします。尿細管はそこでフィルターのような役目をするのですが、腎障害によって尿細管細胞がはがれ落ちてしまつて十分に機能しなくなってしまうのです。なんとか細胞を再生させる方法がないか探ろうというのが、研究班で行っている研究です。

「先生はどうして、尿細管細胞の研究をしようと思ったのですか？」

寺田 急性腎障害は入院患者さんの約10%に発症する頻度の高い病気です。急性腎障害になると、3分の1の患者さんが人工透析をしなければならなくなり、3分の1は残念ながらお亡くなりになってしまいます。しかし、残り3分の1の方は尿細管の機能が回復するんです。この良くなるメカニズムを解明すれば、残り3分の2の人のための新しい治療法が見つかるのではないかと考えたのがきっかけですね。

「研究ではどこまでわかってきているのですか？」

寺田 尿細管細胞というのは、実は再生能力が高い細胞です。急性腎障害でダメージを受けても、生き残った尿細管細胞がうまく再生することで回復します。細胞が再生するには、一度、生まれる前の胎児の頃、胎生期の細胞にまで戻る必要があることがわかってきました。その時に*Shix2*という遺伝子が出て、増殖能力の高い細胞に若返り、再生する

みんなで研究をして自分たちのチームで世界に発表したい。



新しい研究成果をあげて結び付けたいよね。

走り続けてもうすぐ創部50年!!

めざせ!!
アスリート!!

〈高知大学〉陸上競技部

1965年創部という、長い歴史を持つ陸上競技部。多くの優れた陸上選手を輩出し、なかには日本を代表して国際大会に出場する選手も生まれています。現在、部員は約80名。

「学生の自主的な運営が、陸上競技部の特徴であり伝統です」と話すのは顧問の駒井説夫教授。10年前から同部の指導にあたっています。「トレーニングのメニューなどは、学生たちが自ら決めて行っています。ぼくの役目は、アドバイス程度です(笑)」

また、地元大学の陸上部として地域の大会を支える役目を担うのも、代々続いている伝統のひとつです。「地域貢献という意味で、県内のさまざまな陸上大会で審判などを務めたり、大会運営に携わったりしています。年間で30近い大会に審判員などで参加しているため、週末は自らの試合も含めて部員たちはとても忙しいのです。大きな自治体では大会運営に学生が関わる機会は少ないようですが、高知大だからこそできることで、



学生たちにとってはいい経験だと思っています」

先輩、後輩の仲がよいのも特徴。卒業したOBやOGがしばしば練習に訪れてアドバイスをしているなど、卒業後も強い絆が繋がっています。社会人になっても競技を続ける卒業生も多く、大会などで声を掛け合う姿がよく見られます。

陸上競技部の伝統を象徴するのが、節目節目に発行される年史でしょう。創部15年を記念してつくられた15年史から5年ごとに発行され、現在45年史を数えます。これも、学生たちが編集、制作しています。過去の成績なども細かく載っていて、部の歩みが一目でわかります。間もなく50年史に取り掛かるはずですよ。

10月に行われた中国・四国学生陸上競技選手権大会では、3人の選手が優勝しました。「陸上競技では練習はもうろん、食事や生活習慣をきちんとすることがパフォーマンスにつながるります。部員のほとんどがひとり暮らしなので、なかなか大変だと思いますが。競技者としてより高いレベルを、これからも追及してほしいですね」

陸上競技部での経験は将来の役に立つと確信しています

今大会で良い成績が残せたのは、1年くらい前から生活習慣や食生活を整えてきたことが結果につながったのだと思います。日々の練習は、監督や顧問の先生に細かく指導を受けるのではなく、学生同士で作った練習メニューをこなすスタイルです。自主性にまかせてくれる方が練習しやすいし、僕は他の人とちょっと変わった走り方をするのですが、自分の走りを見せてもらった高知大学に入って良かったと思っています。陸上競技部では短距離ブロック長を任せられ、部員を引っ張っていく難しさを学びました。将来、体育教師になることを目指していますが、部で学んだ経験はきっと役に立つと思っています。

陸上部
年史

45年史

40年史



教育学部 生涯教育課程
スポーツ科学コース 3年生
諏訪 裕祐さん



第67回岐阜国民体育大会陸上競技
成年・少年共通男子4×100mリレー
6位入賞(高知県史上初入賞)
※準決勝・決勝は高知県記録準決勝は四国記録を樹立
第35回中国四国
学生陸上競技選手権大会
男子100m 優勝
※中国四国230名の学生スプリンターのチャンピオン
第60回四国陸上選手権大会
男子200m 優勝

教育学部 生涯教育課程
スポーツ科学コース 1年生
堀之内 舞さん

第35回中国四国
学生陸上競技選手権大会
女子7種競技優勝
※自身が持つ高知県
記録を更新

陸上部女子部員も元気に大活躍!!

教育学部 生涯教育課程
スポーツ科学コース 3年生
池田 綾子さん

第66回中国四国
学生陸上競技対抗選手権
女子砲丸投げ優勝
女子円盤投げ優勝

第81回日本学生陸上競技対抗選手権大会に
中国代表として出場

教育学部 生涯教育課程
スポーツ科学コース 1年生
佐藤 ひめかさん

第66回中国四国
学生陸上競技対抗選手権
女子やり投げ優勝

第81回日本学生陸上競技
対抗選手権大会に
中国代表として出場

第35回中国四国
学生陸上競技選手権大会
女子やり投げ優勝



患者さんに全力で研究を頑張りたいという気持ちになります！

透析を受けている患者さんのためになる研究を。

ことが、岡田さんの研究でわかりました。岡田さんは先日行われた日本腎臓学会でこれについて発表を行い、優秀演題賞を受賞したんですよ。

「これからのような方針で研究は進められるのですか？」

寺田 この*Shix2*という遺伝子がよく働けるような薬剤を、他の臓器の治療で実際に使われている薬の中から見つけようと思っています。新薬の開発ということは大学の研究室レベルで出来ることではありませんからね。「創薬」ではなく「育薬」、既成の薬剤を応用的に使おうというものです。効果が期待される薬剤が20種余りあるので、ひとつひとつ試していくのがこれからの研究です。

岡田 既成の薬剤とはいえ、臨床で使われるようになるまでは大変なんです。培養皿の中で細胞を使った実験からマウスやラットでの動物実験を何度も行い、さらに健康な人にも試してみ、臨床で

の治験ということになります。実験の過程では思ったような効果が出ないことも多々ありますから、これからが大変です。

「臨床応用へのニーズは高まっているのですか？」

寺田 患者さんの高齢化に伴い急性腎障害は増え、臨床応用への期待は高まっていますが、薬剤の安全性が100%保障されない限り、たとえ治験でも人への投与は許されません。動物実験を重ねていかなければいけません。

「新しい治療法は、医療の現場でも待ち望まれているではありませんか？」

寺田 腎不全によって人工透析を受けている人が全国で30万人もいます。私自身、腎臓内科医として透析を受けなければならぬ患者さんを何百人と診てきました。新しい治療法によって、ひとりでも多くの人が回復できるようになられば、これほどうれしいことはありません。



PROFILE

医学部 内分泌代謝・腎臓内科
医療学系 臨床医学部門
教授

寺田 典生 (写真左)

静岡県出身。東京医科歯科大学卒業後、3年余、アメリカの国立衛生研究所で研究に携わった経験を持つ。東京医科歯科大学医学部附属病院准教授を務めたのち、2008年より高知大学にて現職。臨床と研究を結びあわせ新規の治療法開発を目指している。

医学部 医学科3年生

岡田 奈月さん (写真右)

高知県出身。筑波大学理学部卒業後、高知大学医学部に入学という異色の経歴。中学3年生から2年間、父の仕事の関係でカンボジアで暮らす。「いろいろ大変でした(笑)が、英語力がついたので論文を読むのに役に立ってます」

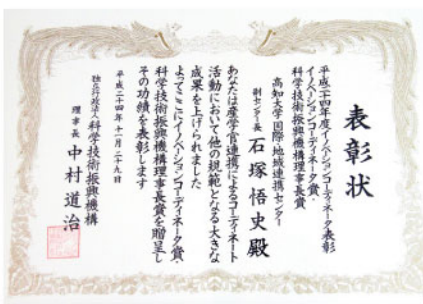
将来を見据えた 取組みが評価

同賞は、シーズ発掘・マッチングなどの産学連携活動や企業化支援などの活動に優れた成果をあげ、かつ、コーディネータ活動の仕組みづくり、人材育成などにも優れた成果をあげた者に与えられるものです。

石塚副センター長は、長年、地域の特性を活かし、水産関連の産学官融合のプラットフォーム組織を構築、機能するまで尽力されました。また、企業化支援や地域ネットワーク構築にも優れた活動を実施し、さらに持続的な発展のために人材育成まで視野に入れた取組みを行っていることなどが高く評価され、今回の受賞となりました。

国際・地域連携センター副センター長
石塚 悟史（いしづか さとし）

1994年高知大学農学部卒業。2001年愛媛大学大学院連合農学研究科修了。博士（農学）総務省地域情報化アドバイザー、産学連携学会理事、四国地域イノベーション創出協議会イノベーションコーディネーター、一般社団法人日本アクアスペース副理事長など。専門分野は産学官民連携／地域再生事業／科学技術振興／環境保全学。



総合科学系黒潮圏科学部門教授
山岡 耕作（やまおか こうさく）
本プロジェクト代表。黒潮源流域の漁民調査をシーカヤックを用いて行っている。



- ①甲浦▶②出羽島▶③東田岐▶④橋泊▶⑤和田島▶
⑥鳴門市堂浦▶⑦鎌野▶⑧豊島▶⑨本島▶
⑩粟島▶⑪伊吹島▶⑫四国中央市

旅では、海から沿岸を観察しながら、10漁村に立ち寄り、漁師さん達と意見交換や懇談を行い、時には秋祭り等にも飛び入り参加するなど、地域の自然や文化、課題などを探り、10月28日に最終目的地に到着、2年目の目標を達成しました。最終年の今年は、愛媛県沿岸をまわって宿毛市に戻り、四国一周海廻路プロジェクトを締めくくる予定です。

シーカヤックで四国一周の旅 海廻路



シーカヤックから見る 四国の海と暮らし

海からゆくりと、四国がどのような土地で、沿岸にどのような人々が住んでいるのかを再発見しよう、平成23年10月から3年計画で始めたシーカヤックの旅「海廻路」が昨年にも実施されました。プロジェクトリーダー・山岡教授や海洋冒険家の八幡咲さんを含むメンバー5人が安芸郡東洋町甲浦を出発。徳島県、香川県沿岸を巡り、愛媛県四国中央市の最終到着地を目指します。

10月11日、出発当日はお天気にも恵まれ、絶好の船出日和。町職員や近隣の保育園児ら約30人の激励を受け、シーカヤック3艇にメンバー5人が

第26回全日本学生空手道選手権大会 重量級優勝、最優秀選手賞受賞

前回の悔しさを バネに優勝

10月28日に兵庫県で開催された選手権大会にて、人文学部3年上田和弥さんが重量級優勝、さらに最優秀選手賞を獲得しました。優勝できた理由は、恵まれた体躯（187㎝）と第25回大会での1回戦敗退が悔しく、その悔しさをバネに練習に集中できたからとのこと。



正道空手同好会 部員募集中 高知大学正道 を検索下さい。

高知大学 第52回室戸貫歩開催

目指せ！室戸岬 90kmの道のり

空手道部主催による第52回室戸貫歩を11月23日・24日に開催しました。朝9時に高知市朝倉キャンパスをスタート。約90km先のゴール室戸岬を目指し、ひたすら歩きます。

近年では、大学関係者以外の方が多数参加するようになり、今回は388名が参加、制限時間30時間内に247名がゴールしました。沿道には、地元の方々による温かい鍋汁や生姜湯などが提供され、今回も沢山の方々の支援により、無事に実施、終了することができました。



第3回ホームカミングデー

高知についての 思い出を語る

11月3日、同窓会連合会と共催し、第3回ホームカミングデーを開催しました。今回は、会場となる朝倉キャンパスで行われる大学祭「黒潮祭」に合わせて実施。書道や写真などの学生が企画した展示を熱心に見学する姿や、模擬店が並ぶメインストリートで楽しそうに学生の作ったたこ焼きなどを買い求め、頑張っている姿が見られました。

また、午後には開催された記念講演には、講師に旧制高知高等学校卒業生の三浦朱門氏（日本芸術院院長）を招き、「高知について思い出すること」と題して講演を開催、約300名の方が集まり会場は満席となりました。三浦氏のユーモア溢れる話術に笑顔と感嘆が絶えない楽しい講演となり、盛会のうちにホームカミングデーを終了しました。



日本芸術院院長
三浦 朱門（みうら しゅもん）
旧制高知高等学校第21回卒業生。
2004年10月より日本芸術院院長を務めている。



名誉ある受章

このたび、長年教育研究に功労してきたとして高知大学関係者4名が名誉ある受章をされました。

- 瑞宝重光章 元高知大学長・高知大学名誉教授 相良 祐輔（さがら ゆうすけ）氏
- 瑞宝中綬章 高知医科大学名誉教授 内海 耕健（こうけん）氏
- 瑞宝中綬章 高知医科大学名誉教授 田中 修二（たなか しゅうじ）氏
- 瑞宝双光章 元高知大学医学部附属病院看護部長 宮井 千恵（みやい ちえ）氏

高知県医師養成奨学金貸与学生と 県知事との意見交換

知事と学生の 活発なやりとり

11月28日、高知大学医学部において、地域医療に對しての理解を深めてもらうために、高知県の医師養成奨学金を貸与されている53名の医学部学生と尾崎正直知事が参加して意見交換会が開催され、活発な意見のやりとりが行われました。

3回目の開催となる今回の意見交換会で、尾崎知事は学生に對し、「地域の暮らしを支える医師を目指して欲しい」と語り、学生からの「高知の医療の現状」や、「県外からの医師の受入体制」など、高知県の医療に関する質問に對し、熱心に説明する場面が見られました。



地域医療の
大切さを感じました！

こどもサッカー教室を開催



サッカーで 楽しく交流

12月1日、高知銀行との共同開催でこどもサッカー教室を高知県立春野総合運動公園球技場で行い、約2500人の子ども達が参加しました。サッカー教室は3回目となり、球技場には子ども達とサッカーを通じて触れ合う高知大学サッカー部員の姿がありました。